

# 2011年3月期決算概要と 2012年3月期の取り組み

テルモ株式会社  
執行役員 経営企画室長

佐藤 慎次郎

2011年 5月11日

# 決算概要

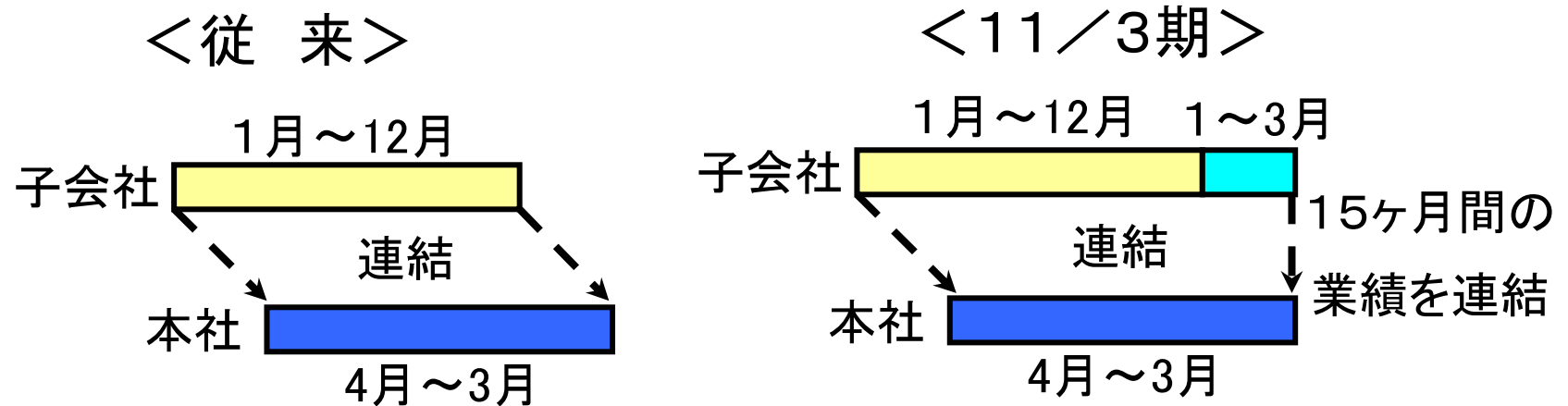
(億円)

	10/3期 累計	11/3期 累計(*)	増減率	為替影響 除く
売上高	3,160	3,282	+4%	+9%
粗利益	1,664 (52.6%)	1,708 (52.0%)	+3%	+9%
販管費	1,031 (32.6%)	1,082 (32.9%)	+5%	+10%
営業利益	633 (20.0%)	626 (19.1%)	-1%	+7%
経常利益	636 (20.1%)	569 (17.3%)	-11%	
純利益	407 (12.9%)	323 (9.9%)	-21%	
期中平均レート	US\$ 93円 EUR 131円	86円 113円		

(\*)海外子会社会計期間統一の影響を含む

# 海外子会社会計期間の統一

## ■ 12月決算のアジア地域子会社5社について統一



※12/3期以降は4月から3月までの決算にすべて統一

## ■ 11/3期連結業績への影響(プラス3ヶ月分の影響)

(億円)

売上高	営業利益	純利益
+19	+10	+7

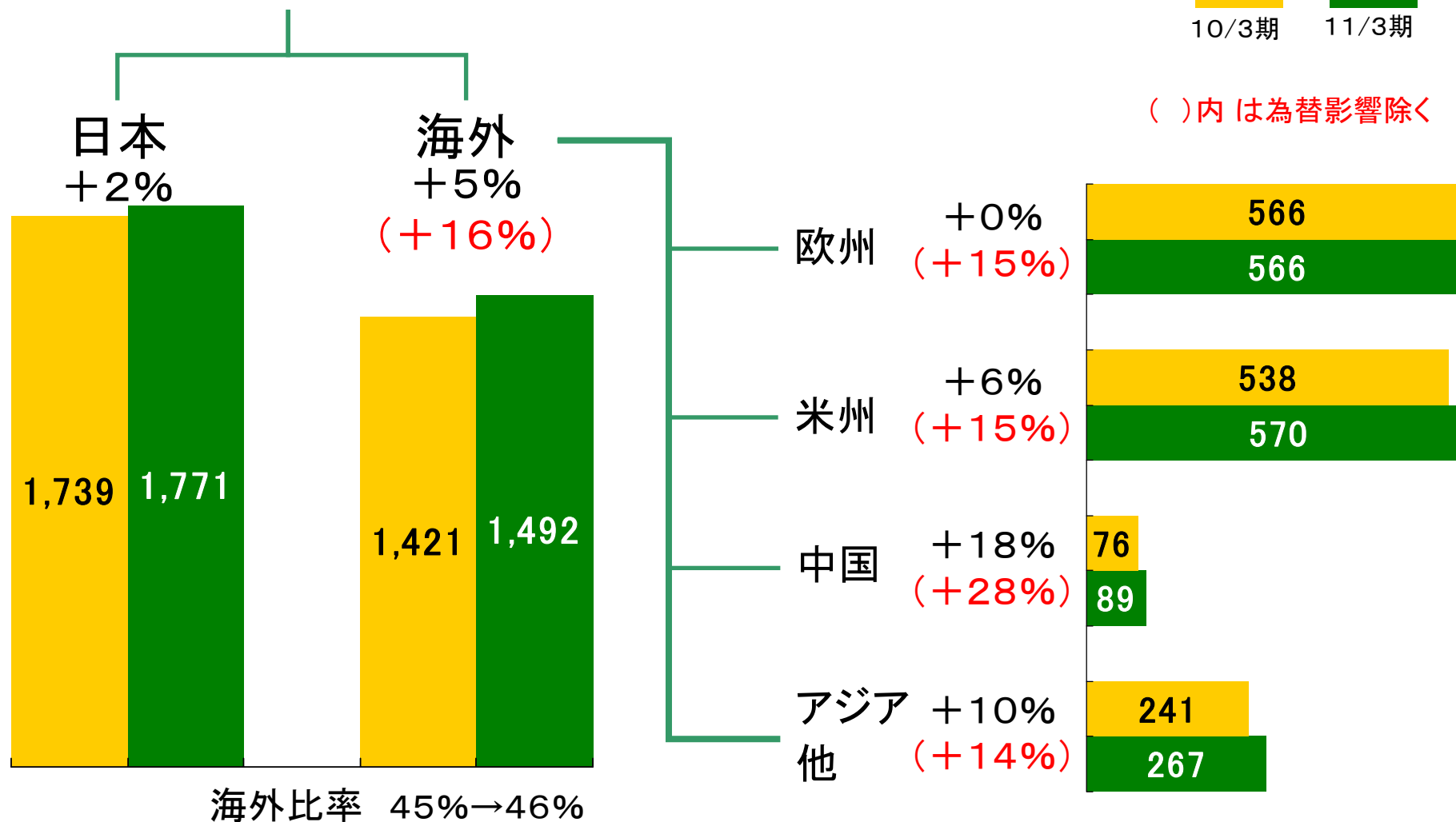
# 売上高 (地域別)

連結: +3% (+8%)

(億円)

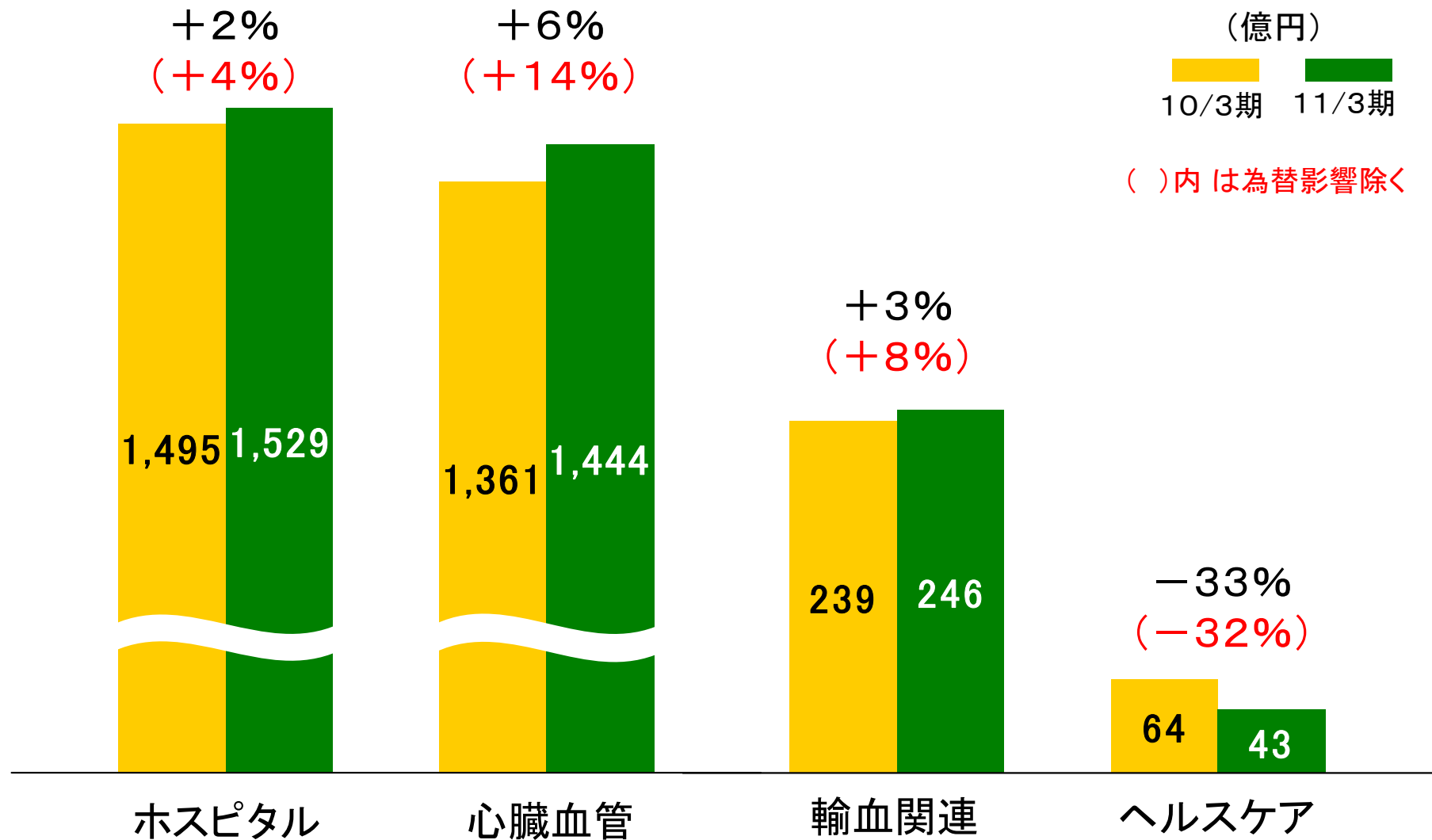
10/3期 11/3期

( )内は為替影響除く



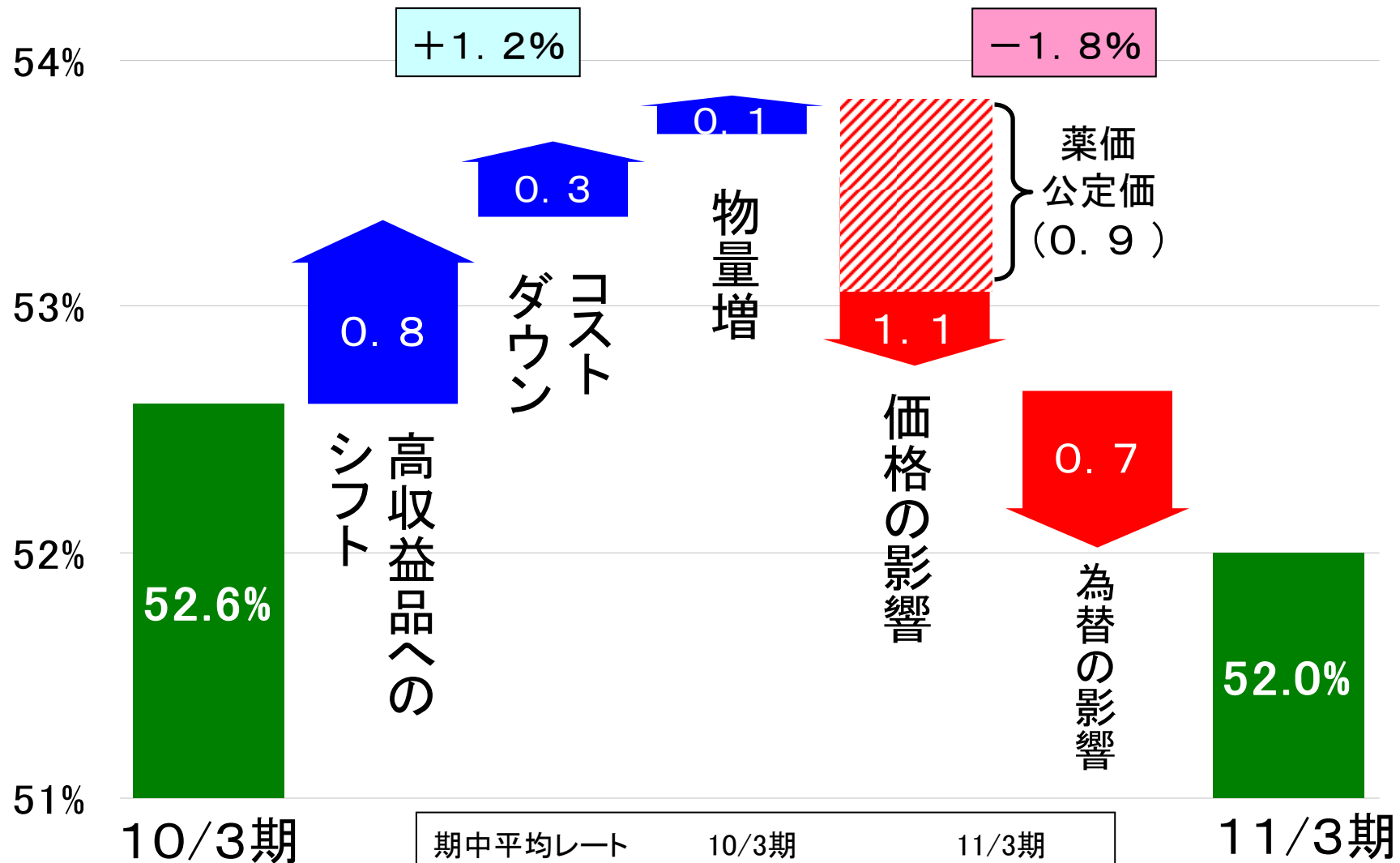
※海外子会社会計期間統一の影響(19億円)除く

# 売上高 (事業セグメント別)



※海外子会社会計期間統一の影響(19億円)除く

# 粗利益率差異分析



# 販管費

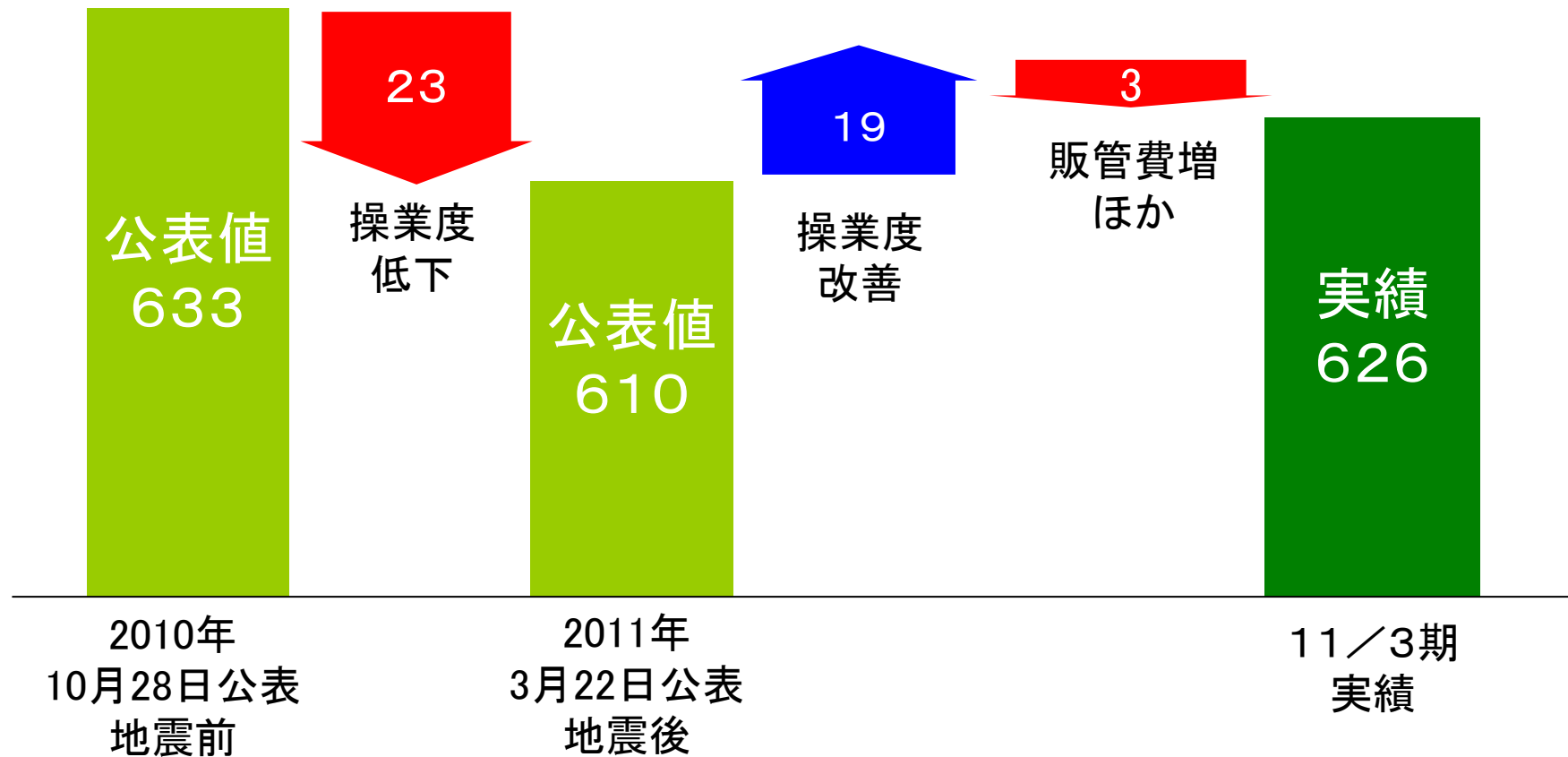
(億円)

	10/3期 累計	11/3期 累計	増減	増減率
人件費	382	389	+7	+2%
販促費	110	105	-5	-5%
物流費	90	96	+6	+7%
償却費	51	47	-4	-7%
その他	223	241	+18	+9%
一般管理費計	856 (27.1%)	878 (26.7%)	+22	+3%
研究開発費	175 (5.5%)	204 (6.2%)	+29	+16%
<b>販管費合計</b>	<b>1,031 (32.6%)</b>	<b>1,082 (32.9%)</b>	<b>+51</b>	<b>+5%</b>

( )内は対売上高%

# 通期予想との差異(営業利益)

(億円)





# 12／3期の取り組み

---

## 1兆円軌道への第一歩

- 震災からの復興
- 血液システム事業の統合
- Harvest社買収

# 正常化に向けた復興推進

- 生産は、通年でほぼ平均100%稼動の状態へ
  - 原材料:在庫、代替原料の確保
  - 電力:柔軟な勤務体制、自家発電機の確保
  
- 売上・利益への影響
  - 供給制約による輸液剤など一部商品の売上減
  - 一部開発難航による新商品発売の遅れ
  - プロジェクト、経費の見直しによるコスト削減
  - 売上高100億円、営業利益30億円のマイナス影響

# CaridianBCTとの統合



- テルモ輸血事業+CaridianBCT = TERUMO BCT へ
- 両社から地域別・機能別にメンバーを集めチーム編成  
－1年以内に組織統合を完了
- 世界中の顧客に対し両社の強みを併せて新しい価値の提供  
－「血液システム事業」モデルの確立
- グローバル化の加速  
－CaridianBCTのCEOが事業のトップ

# Harvest社買収

## <買収概要>

■ 対象企業: Harvest Technologies社(米)

■ 買収価格: US\$70百万(約57億円 1US\$=82円換算)

\*別途2012年~2015年にかけて、合計で最大\$35百万のマイルストーン払込契約あり

■ 設 立 : 1997年

■ 拠 点 : 米・独(18カ国に販売)

■ 業 績 : 売上高 US\$26M、営業利益 US\$ 3M (10/12期)

■ 製品・用途:

・既存事業: 遠心分離機と採取キット ⇒ 心臓外科・整形分野: 患部の感染予防・治癒促進

・新規事業: 同じ機器とキット ⇒ 血管外科・心臓外科: 足の虚血改善への適用

# 買収の背景・意義

## ■背景

・TCVSによる販売実績

⇒米国心臓外科領域で2006年から独占販売

・細胞治療の実用化、拡大トレンド

\*)治療手技普及率(米国)

⇒心臓外科手術の約15～20%、整形外科手術では約10%

## ■意義

・製販一体化による事業強化

・より患者さんへの負担が少ない「治療技術」の拡充

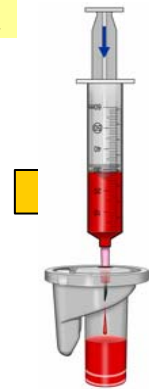
・再生医療への戦略的展開

⇒BCT(アフェシス、細胞培養)とHarvest(分離)の技術獲得

# 血液・骨髄の分離・採取で高い技術

## ■既存分野：心臓外科・整形等（TCVSが販売中）

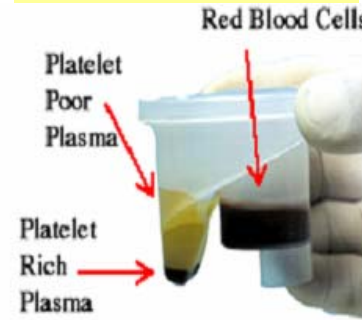
- ・自己血採取
- ・自己骨髄採取



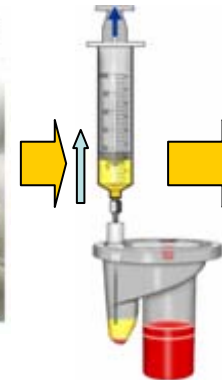
遠心分離



分離物採取



手術創などに  
投与



## ■新規分野：血管外科等

骨髄から採取した成分を  
足・心臓の虚血部位に投与



① 下肢虚血改善治療  
(2011年第1Q米国治験スタート)

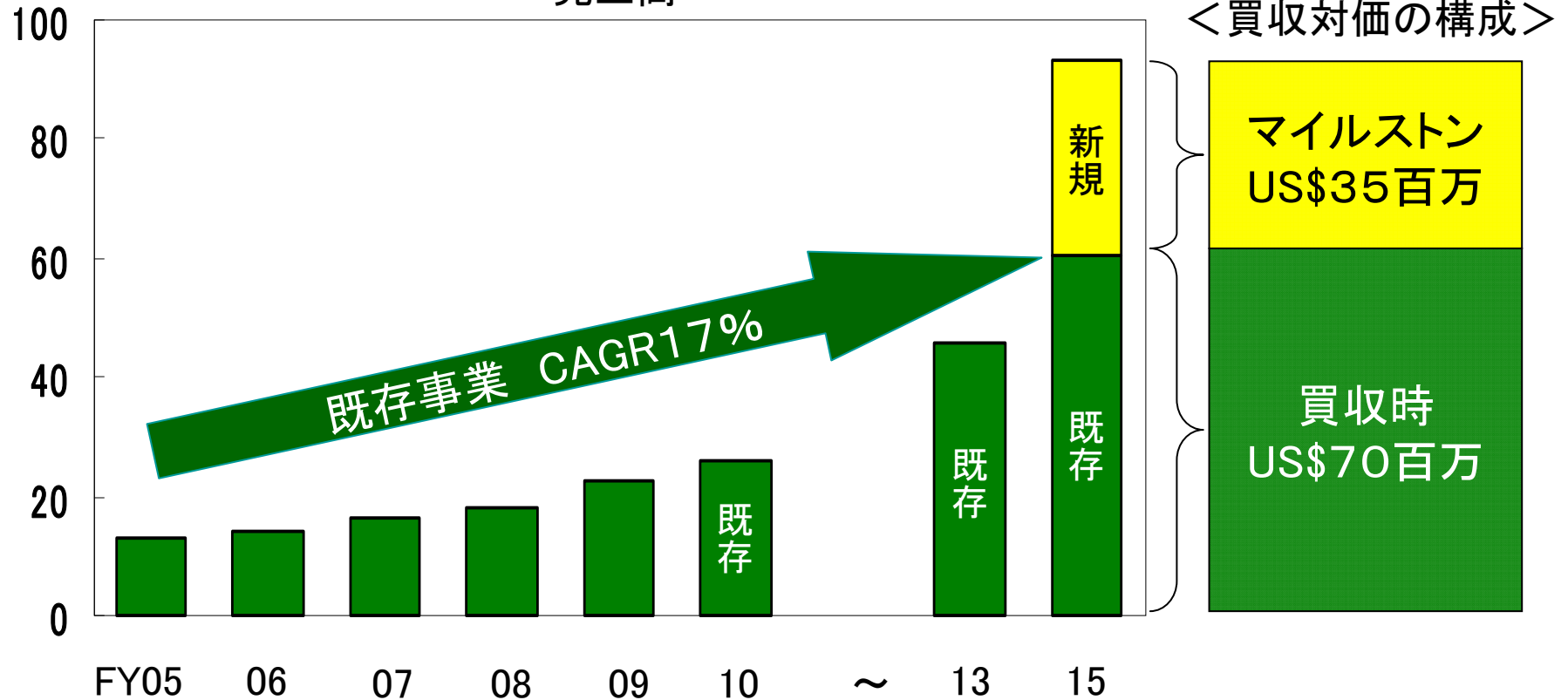
② 心不全治療  
(パイロットスタディ中)

# ベースとなる既存事業で高成長

## 細胞治療領域拡大で更に高い成長ポテンシャル

単位: \$mil

売上高



---

# 12／3期業績予想



# 12／3期業績予想

(億円)

	11／3期 実績	12／3期 予想(*)	増減率	為替影響 除く
売上高	3,282	3,320	+1%	+3%
営業利益	626(19.1%)	650(19.6%)	+4%	+7%
経常利益	569(17.3%)	630(19.0%)	+11%	
純利益	323(9.9%)	400(12.0%)	+24%	
期中平均レート	US\$ 86円 EUR 113円	80円 113円		

(\*) CaridianBCT、Harvest、2社の業績予想は含まず

(\*) 償却方法の定額法への統一による影響を含む

# 有形固定資産償却、定額法へ統一

---

## ■ 目的

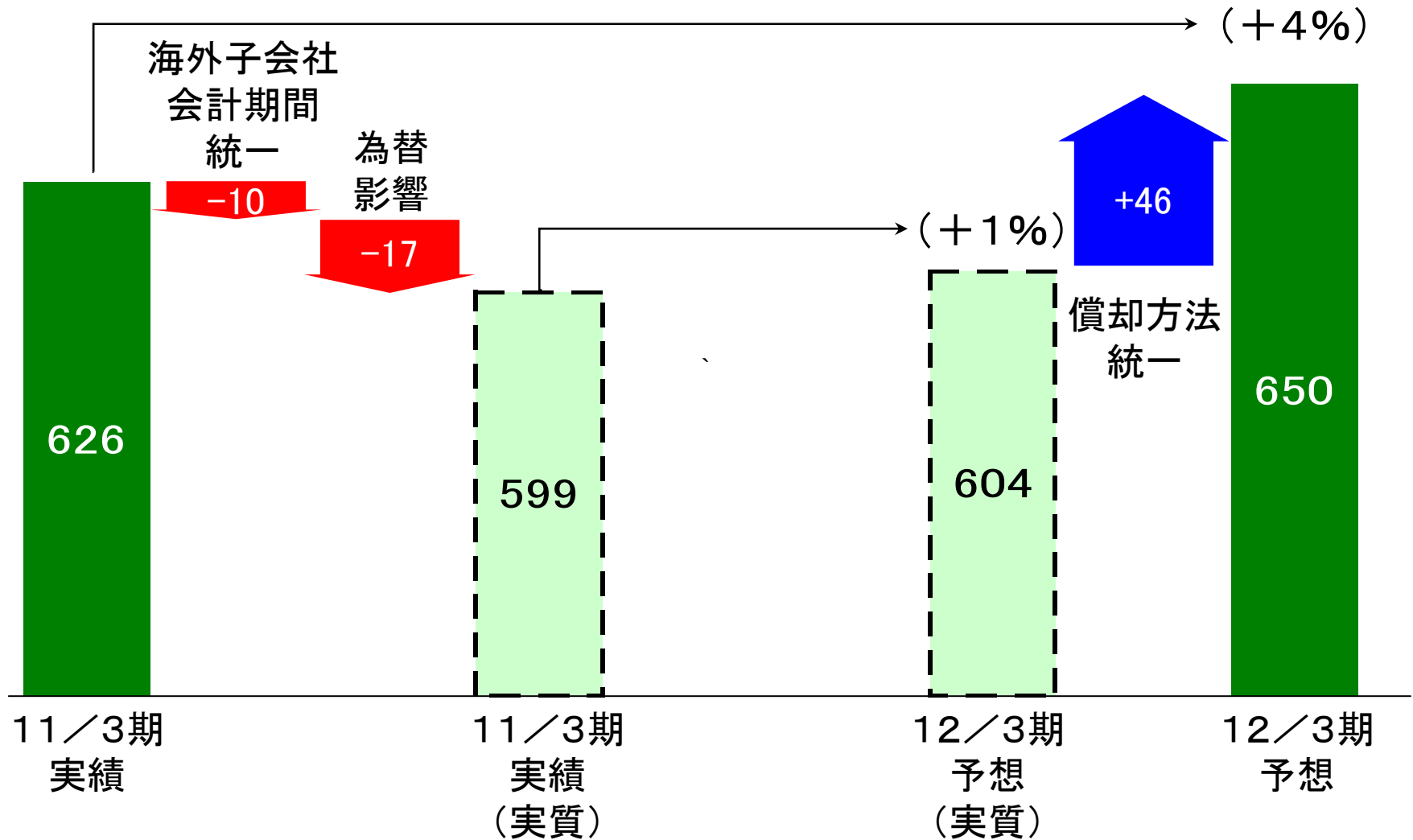
- ✓ グローバル経営管理の迅速化
- ✓ 海外は定額法がスタンダード
- ✓ 事業実態に即す
- ✓ IFRSへの備え

## ■ 12／3期への影響額

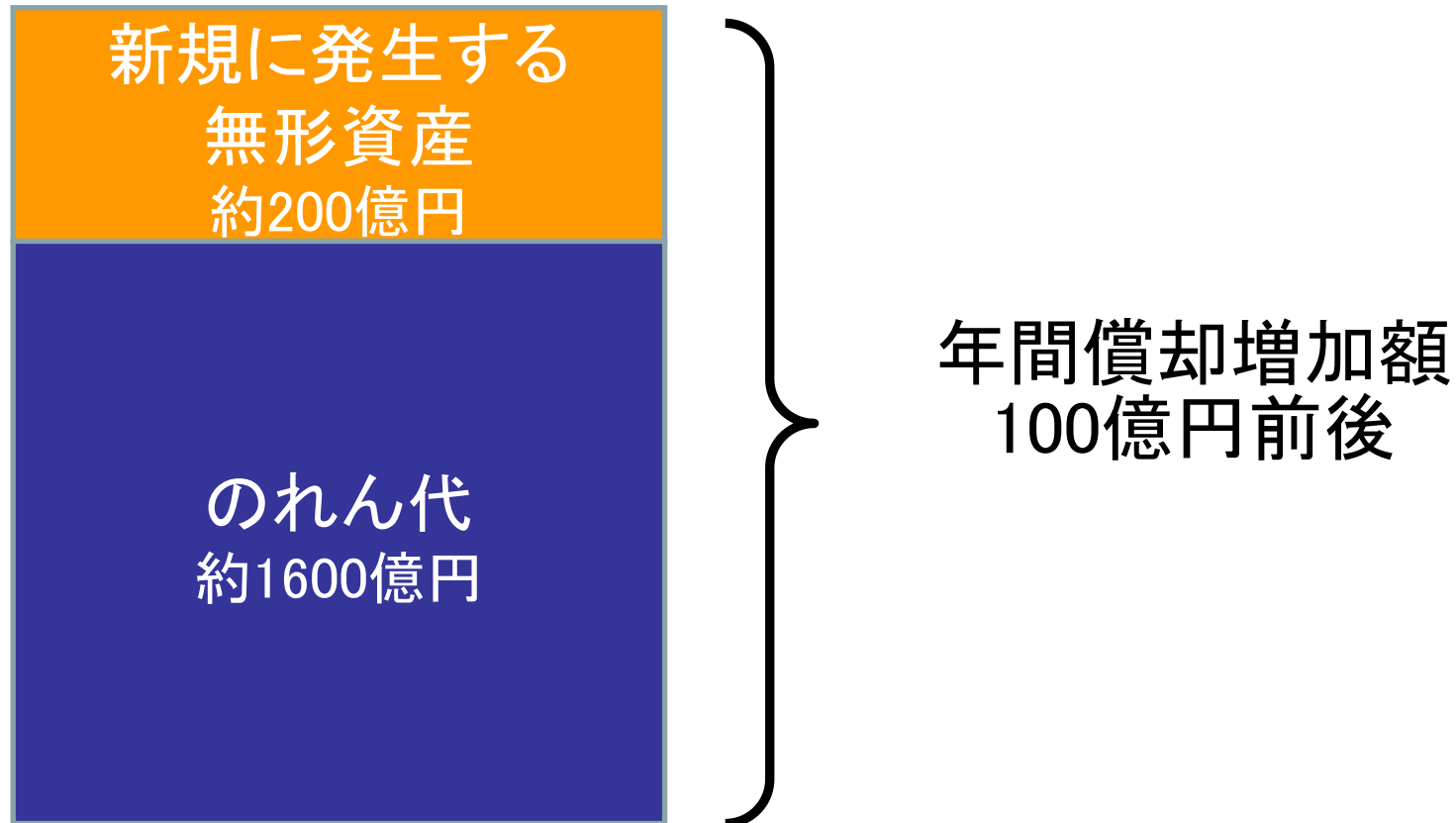
- ✓ 約46億円の償却負担減

# 営業利益の増減要因

(億円)



# CaridianBCT買収後のれん代償却試算



※資産価値金額、その分配分類および償却方法・期間等の会計処理は、第三者である外部専門家の資産評価と当該結果にかかる会計監査人の監査を経て確定するため、上記の予想は現時点での当社見積もりによるものです。

# 買収会社、業績への影響見込み

- 本業では初年度から高収益を確保
- のれん等償却により、ほぼ収支均衡

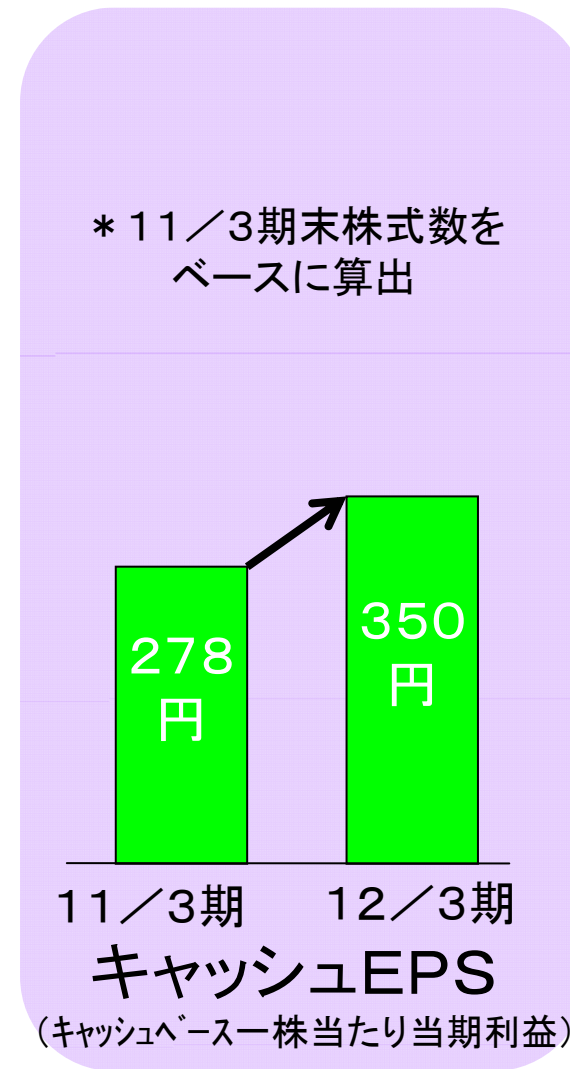
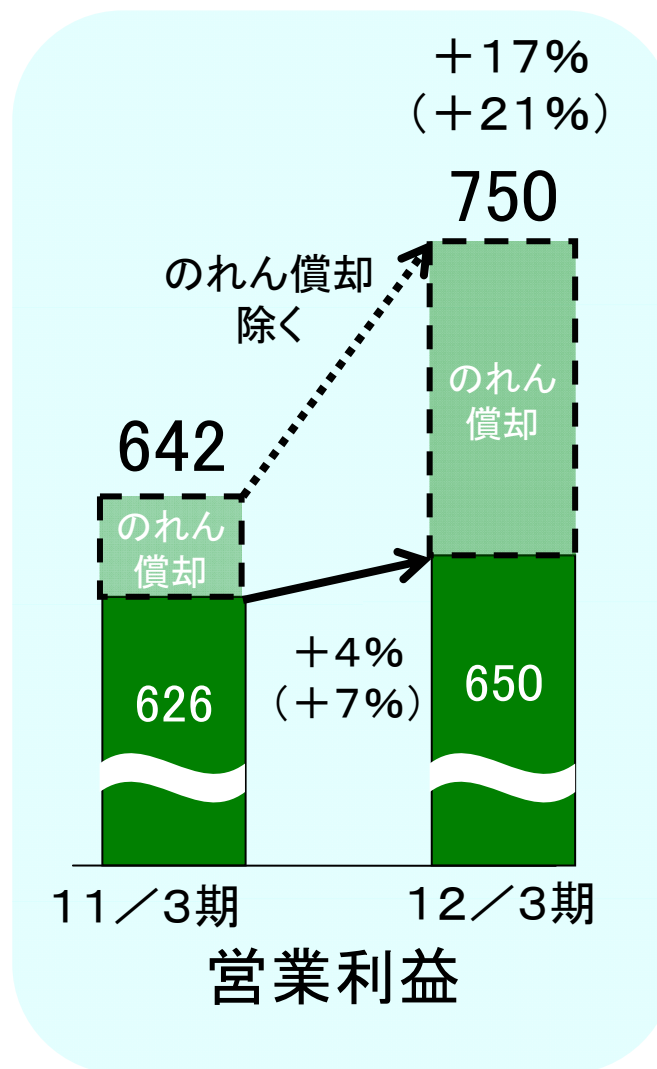
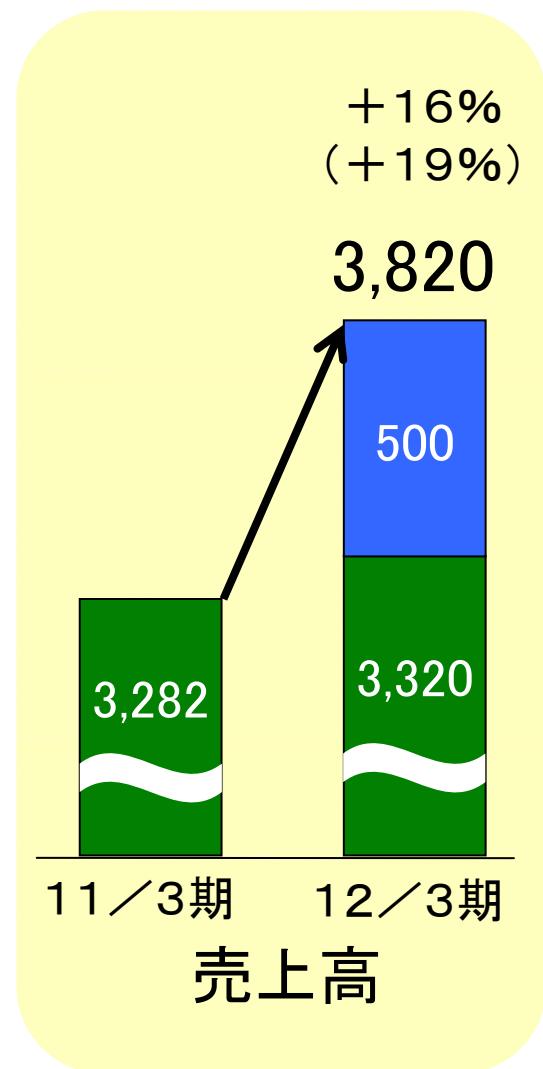
(億円)

	Caridian BCT	Harvest	計
売上高	480	20	500
営業利益	100	4	104
のれん等償却費(*)	▲100	▲3	▲103

(\*) 資産価値金額、その分配分類および償却方法・期間等の会計処理は、第三者である外部専門家の資産評価と当該結果にかかる会計監査人の監査を経て確定するため、上記の予想は現時点での当社見積もりによるものです。

# 買収会社を含む売上・利益イメージ

単位：億円、%：増減率、( )為替影響を除く



# 参考資料

# 決算概要 (四半期3ヶ月)

(億円)

	10/3期 Q4	11/3期 Q4(*)	増減率
売上高	771	840	+9%
粗利益	403 (52.2%)	436 (52.0%)	+8%
販管費	270 (35.0%)	291 (34.7%)	+8%
営業利益	133 (17.2%)	145 (17.3%)	+9%
経常利益	132 (17.2%)	140 (16.7%)	+6%
純利益	89 (11.5%)	49 (5.8%)	-45%
期中平均レート	US\$ 91円 EUR 126円	82円 113円	

(\*)海外子会社会計期間統一の影響を含む

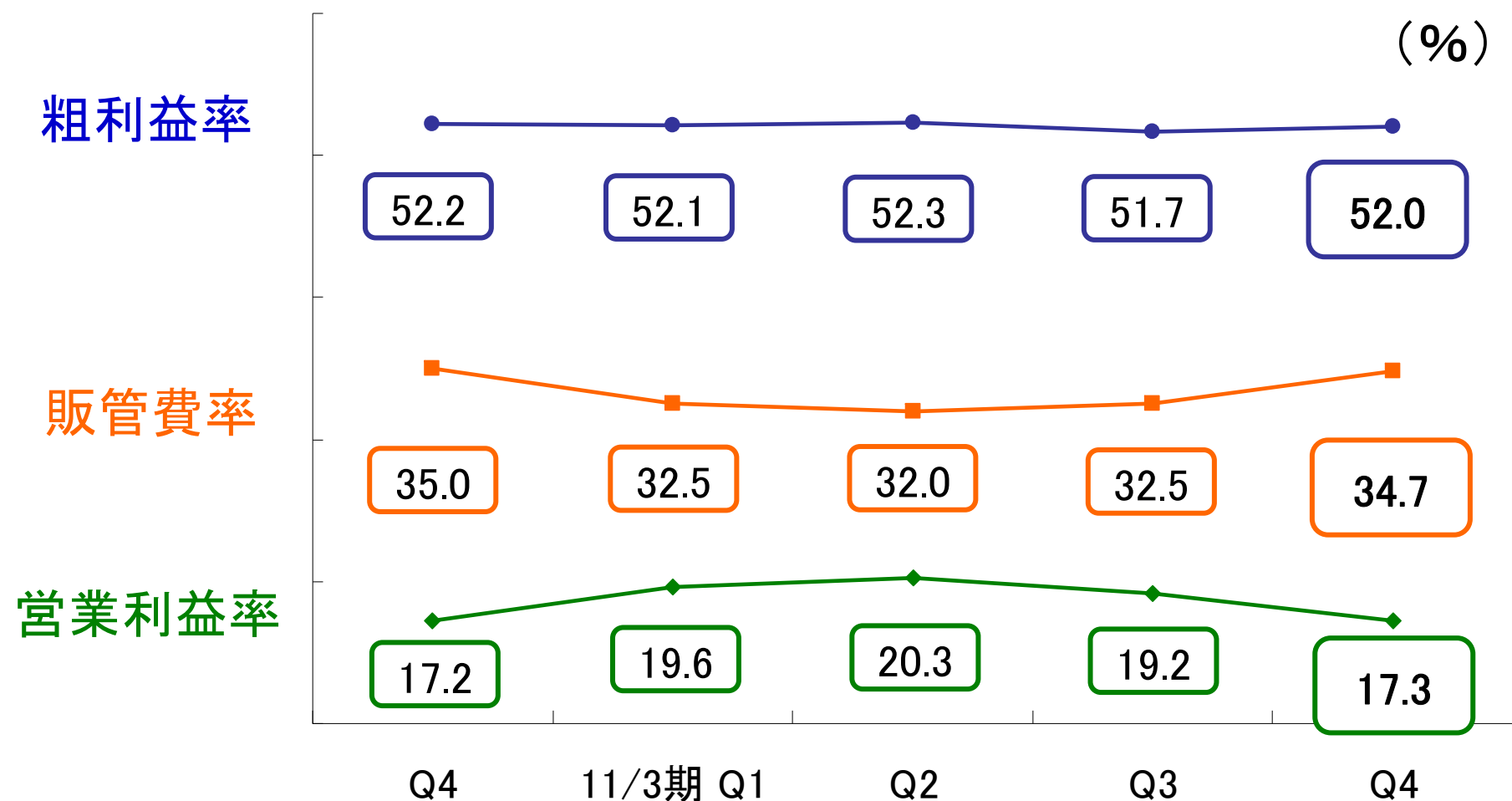


# 11/3期下期の決算概況 - 対下期見通し

(億円)

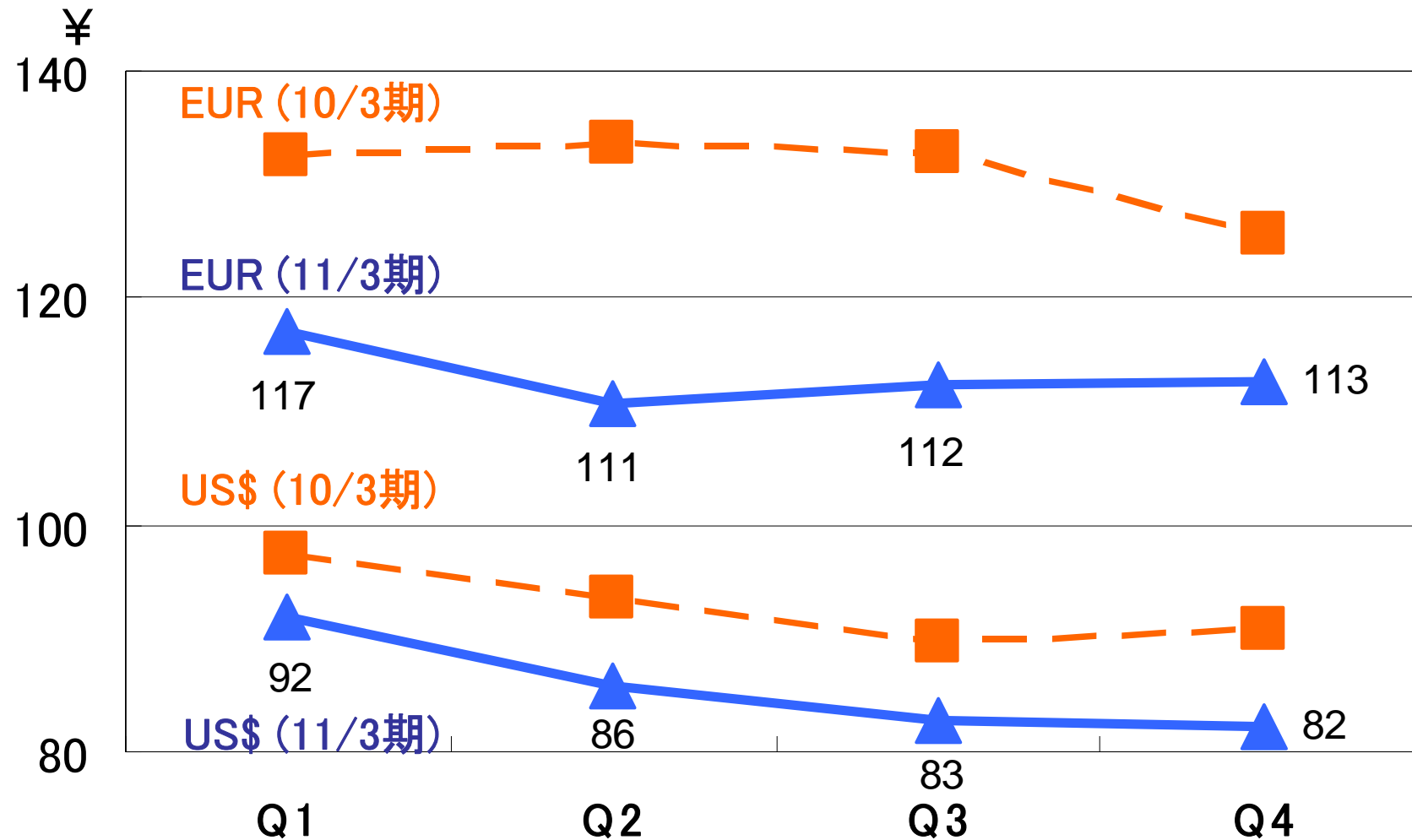
	下期見通し	下期実績	達成率	為替影響
売上高	1,621	1,643	101%	+15億円 (達成率0.9%押上げ)
営業利益	283 (17.5%)	299 (18.2%)	106%	+4億円 (達成率1.5%押上げ)
経常利益	264 (16.3%)	287 (17.5%)	109%	
純利益	137 (8.5%)	140 (8.5%)	102%	
為替レート(US\$)	80円	83円		
(EUR)	113円	112円		

# 粗利益率、販管費率、営業利益率



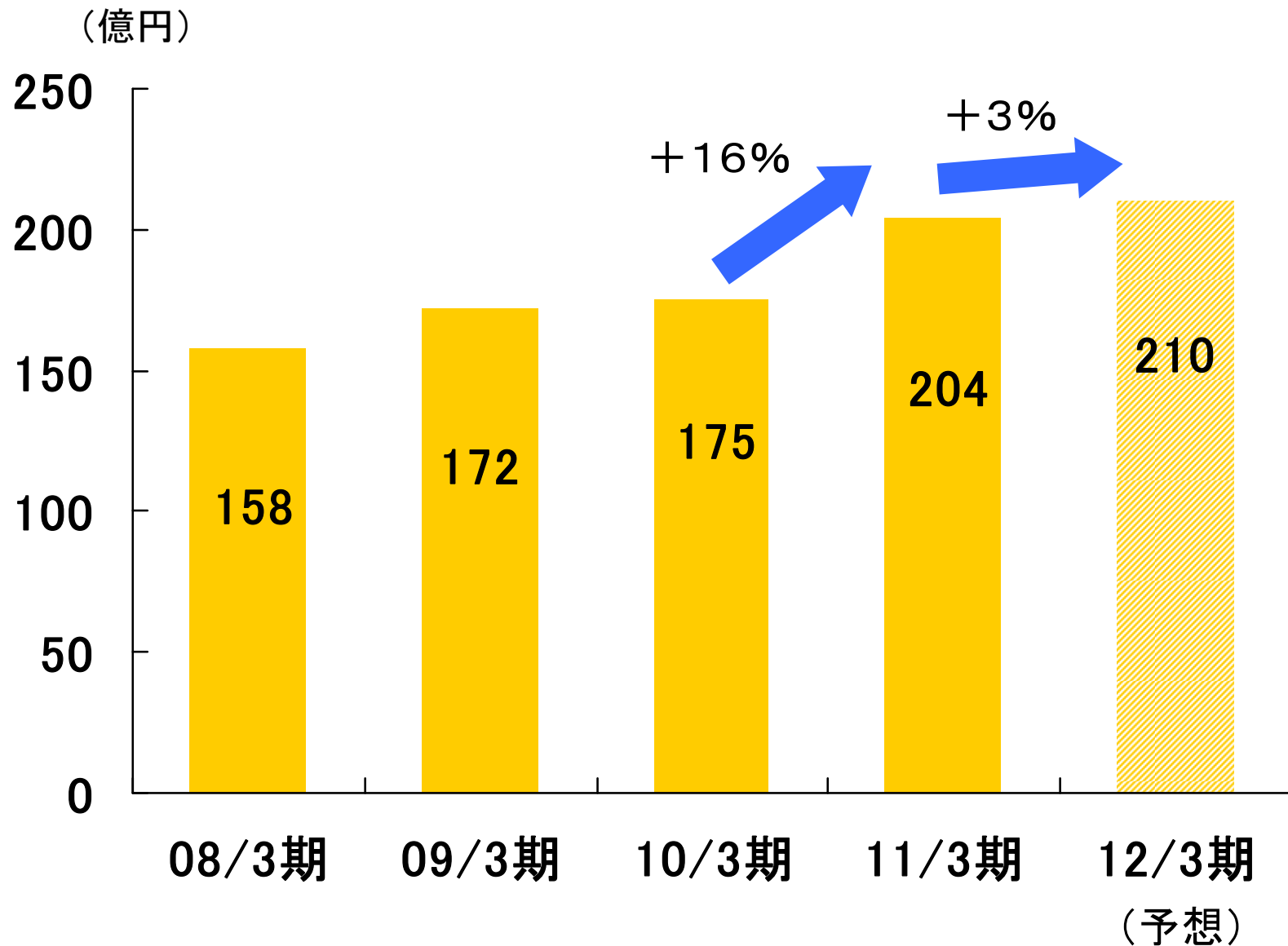
(各四半期の3ヶ月単位)

# 四半期平均為替レート推移



(各四半期ごとの期中平均レート)

# 研究開発費



# 《おことわり》

---

本資料のうち、業績予想ならびに将来予測は、現時点で入手可能な限られた情報に基づき、テルモで判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。

また、市場規模等については、当社の独自の調査を含んでおります。